

共に育つ

A君が笑顔で走ってくるのが見えました。「今日も御機嫌がいいわ」「A君おはようございます」しっかりと目と目を合わせて朝の挨拶をする、「おはようございます」「ちょっと甘えたA君の表情がとても可愛い。A君は難聴児なのです。」

補聴器をつけているのですが、真うしろや真横からの声は聞きとれません。唇の動きで対話をするのです。

十月のある日「障害のある子供でも入園させてください



稲岡 康好

いますか。」当園に来られたお母さんの両側には、補聴器をつけた兄と妹が立っていました。生まれつきの病気のために、二人とも強度の聴覚障害児なのです。しかし、そのお母さんの態度には少しも不安気な様子はなく、むしろゆったりとした落ち着きさえ感じられました。

五歳児とはいっても、入園当初の子供たちの遊びは何

となくぎごちなく、大型積木で遊んでいる姿も個々で好きなものを作っています。家らしき囲いを作って出たり入ったりしている子、トンネルを作ってくぐるのを楽しんでいる子、仲良しのいる子はままごとをしているようです。A君は囲いに工夫して板を組み合わせてドアを作っています。その板を左に押すと開くのです。自分がその横に座ってドアマンよろしく開けたり閉めたりしています。友達が勝手に入ろうとすると「……」何か言っています、でも相手に伝わらないのです。他の子供たちも不思議そうに見ています。そのうち「この積木のドアをトントンとノックして」と言っていることが教師に分かりました。教師がトントンとたたくとA君はにこにこ顔で開けてくれました。A君のお家に友達がたくさん遊びに来てくれました。

大型積木を床へ置く時の音が聞こえないA君はお片付けの時、元氣よく大きな音で床に置くのです。クラスの友達は、「ワーうるさい」と言って両手で耳を押さえます。

す。扱い方も乱暴なので「危険だよ。」と教えるのですがよく分からないようです。教師は対話の手段として手真似をしました。少し分かったようです。

降園時にA君のお母さんと話しました。

〔前略〕手っとり早い伝達の方法で、相手からも又、自分からも心が通じてしまうとすれば、どうしても簡単な方法に傾いてしまうのは自然の成りゆきでしょう。

(中略)

Aが分かるうとして聞く態度が出来ていて、しかも一生懸命こちらを見ていてお互いの目が合った時、それがチャンスです。視線をそらさずに何度か言う、あるいは一回でも分かれます。

ある先生は難聴児を一人育てると言うことは、六人の健常児を育てる程の間がかかる、と言われました。その世話は私が見ますから、先生方はどうぞ他の子と同じように見守ってやって下さい。(中略) Aに関しては私が一番のプロです。いつでも何でもお尋ねください、精一杯お答え出来ると思います。」

お母さんはこうおっしゃいました。

A君が園庭で友達と遊んでいます。タイヤを一列に並べてその上を走っているのです。最後のタイヤを走り終えた時、A君が右に、左にと大きく手を振っています。

「何をしているのかしら」暫く見ていて分かりました。

「男の子は右へ行け、女の子は左へ行け」と言っているのです。しかし不明瞭な発声と発音で子供たちは分かっていないのです。好き勝手な方向へ廻って後ろについて又タイヤの上を走っています。A君は木切れを拾ってき、右側へ「おとこ」左側へ「おんな」と書きました。字の読める子が通訳をしてその場は成功。

A君と同じマンションのS君。生まれた時から一緒に育った仲良しです。A君の良き理解者。

ゲーム遊びで二人組になる時、視線はA君に向けられています。A君が早く二人組になったのを見て、自分も友達をみつけます。A君がなかなか相手をみつけれられ

い時、サッと手をつなぎに行きます。

園外保育に行くバスの中、A君はマイクを持って歌いました。でも私達には分かりません。手拍子を打ってここにこしているのですが、メロディも詞も分からないのです。突然S君が大きな声で「こぎつねコンコン山の中……」と合わせました。二度目はバスの中で大合唱になりました。

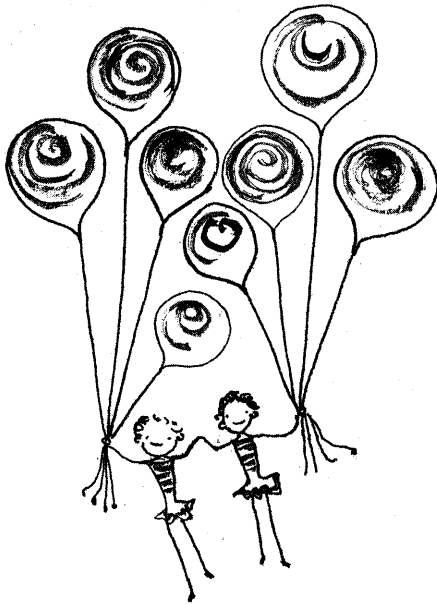
A君の園での生活を知っていただくために交換ノートを作るよう、担任に申しました。

お母さんから先生へ

「難聴と言う事」

「簡単に言う」と聞こえにくい事です。でも補聴器（以下はHA）をつけて、ちょっと呼んでも聞こえないA君を見てみると、きつと名前を呼ぶ大きな声も聞こえない、と友達は判断すると思いますが、どうしてどうして、オルゴールの音だって聞こえるんです。

我が子が難聴と分かった日から、親の我が子への口数がぐっと減るそうです。聞こえないなら話しかけても無駄、ついついそう思ってしまうのではありませんね。聞こえにくくても、HAをつけているのに。親は突然何を話しかけたら良いのか、どういう風に話しかけたら良いのか分からなくなってしまうのです。子供にはHAをつける前も後も全く同じ、かわいいままですのに



……、もちろん「言葉は耳を通して伝わってくるものです。けれども言葉を介して伝えようとする心は直接心に響くはずです」ほとんど聞こえない幼子を胸にしっかり抱いて散歩します。花を見ては「きれいなね」鳩を指しては「ポッポがいるね」とか言いながら歩きます。(中略)

難聴児といっても、聴覚以外は普通の子供と同じ、

何でも出来ないはずはない。と頑張ってきました。それでも耳からの情報が他の子供たちよりも少ない分だけ色々遅れはあると思います。けれども何にでも興味がありますので、どんなむずかしいことでも言ってみてやってください。これは無理かな、と思う事でも案外すつと分かる事もあるようです。(以下略)〃

先生よりお母さんへ

〃お花が笑った〃の歌をうたいました。A君の得意な歌なんです。それは大きな声で歌ってくれます。二回、三回、とうたっているうちに『もつと知ってるよ』と言わんばかりに、『コチコチカッチン』と時計の歌をうたい出すのです。この歌もとてもお気に入りです。でも「お花が笑った」の歌と一緒にうたわず、一生懸命に別の歌をうたっている彼に苦笑しました。〃

このようにして毎日、担任とお母さんとの交換ノート

は続きました。

一学期はとまどいの日々でした。A君が話しかけてくれるのに私達は分かりません。三度まで聞き返しますが四度はもう聞き返すことが出来ないのです。A君の懸命な姿に胸が一杯になり曖昧な笑顔で分かったように首をふってしまいます。

お母さんにその事を話しました。「先生、今後はそのような事はしないでください。先生がお分かりになるまで、四度でも五度でも聞き返してやってください。今日、分からなければ又明日教えてね、と言ってやってください。Aは分かってももらえるように努力します。Aは強い子なのです。私はそのように育てて来ました。」そうきっぱりおっしゃったのです。

二学期のある日、自由あそびの時、あじさい組の子供がリレーをしています。「がんばれ」応援も元気です。

A君とM君が走っています。M君はクラス一番の腕白坊

主なのです。何でも一番でないと我慢が出来ないので。まっ赤な顔で走っています。A君が勝ちました。「ワーA君走るのが早いなあ」M君が地面にひっくり返って、青空を見上げて叫んでいます。とても嬉しそうな顔で。

先生からお母さんへ

「今日はゲーム遊びをしています。フルーツバスケットです。鬼になった子が円の真中に立って「いちご」とか「メロン」とかフルーツの名前を言うと円周に座っている子は大急ぎで他の椅子に移るゲームです。椅子とりゲームなのです。鬼がA君に背中を向けていたらA君は全然分かりません。K君が「鬼はA君の方を向いて言ってやれよ」と注意をしてくれました。」

お母さんより先生へ

（前略）健常児と共に生活をして、一緒に学校へ行つて、普通の社会人になってほしい、と思っています。

私はこの子をそう思って育ててきました。当面の目標はだれが聞いても分かるように話せる事ですが、本当の目標はちゃんと自立した普通の考え方の出来る社会人になることです。「生きる」と言うことの本当の意味の考えられる人間になることです。あるいは、なろうと努力することです。（以下略）

心身障害児を考える時、早期発見、早期教育と共に、集団の持つ教育力は大きいと思います。健常児との統合教育の中で、その子から学んだり、又、そのお母さんから学ぶことが多くあります。毎年何等かの障害のある子供と共に過ごしながら、貴重な経験をさせていただいています。この経験を今後の統合教育に生かしていくと共に、私の生きる指針にしていきたいと思えます。

（神戸市立大池幼稚園）